

令和 8 年

第 8 回本巢市教育委員会会議録

(令和 8 年 7 月 3 1 日)

本巢市教育委員会

第 8 回 本 巢 市 教 育 委 員 会 会 議 録

会議の場所 本巣市学校給食センター 2 階 会議室
日 時 令和 8 年 7 月 3 1 日 金曜日 正午
出席者 教 育 長 川治 秀輝
教育委員 小澤 明年
教育委員 黒田 隆吉
教育委員 松浦 尚美
教育委員 藤木 節子

本委員会に職員として出席した者の職氏名

教育委員会事務局	高木 孝人	事務局長兼教育総務課長
	薄田 茂樹	参事兼学校教育課長
	脇田 純一	参事兼幼児教育課長
	長屋 和宏	参事兼社会教育課長
	登尾 裕美	幼児教育課主幹
	茶縁 愛香	学校教育課総括課長補佐
	高田 茂和	教育総務課課長補佐 兼教育総務係長

議題

議第 2 5 号 令和 9 年度使用小・中学校用教科用図書岐阜地区採択について

その他

- (1) 令和 8 年度岐阜県市町村教育委員会連合会研究総会について
- (2) 次回教育委員会開催期日について

開会 正午

川治教育長 : 開会を宣告した。

川治教育長 : あいさつ、報告の中で、

① 1 学期の振り返り

「自分たちの学校は自分たちでつくる」という当事者意識を持たせる取組（こども会議等）を進めた結果、明らかに 1 学期の不登校や欠席者数が減少するという大きな成果が見られた。子どもたち自身に主体性や責任感が芽生えることで、学校への適応力が高まることを実感した。

② 水泳教室の成果と課題

夏休み初頭に、水泳が苦手な児童を対象とした水泳教室を実施した。外部指導者等の協力を得て、「泳げない子をゼロにする」という目標のもと指導を行った。参加者は約 250 名に上り、多くの子どもが 25 メートルを泳げるようになるといった成果を上げた。

一方で、これほど多くの泳げない児童が潜在していたという点については、各学校における平時の体育・水泳指導のあり方を検証・見直す必要がある。

③ 夏季講座と生徒の活躍

夏休み中、子どもたちは自身の得意を伸ばすため様々な活動に挑戦している。数学や英語の講座、防災リーダー養成講座への参加をはじめ、ジュニア司書には 22 名が登録し自主的に活動中である。

また、中体連では糸貫中学校バレー部が東海大会進出を決めた。

さらに、東北研修を通じて防災士や防災リーダーを目指す子どもたちの派遣も予定されている。

について話をした。

.....
川治教育長 : 事務局の報告を求めた。

薄田課長 : 資料に基づき説明した。

薄田課長 : 7 月 21 日に開催された、第 2 回本巣市学校のあり方検討委員会の検討状況について、別添資料に基づき説明した。

脇田課長 : 資料に基づき説明した。

長屋課長 : 資料に基づき説明した。

茶縁総括補佐 : 先月 6 月 26 日の教育委員会で審議された、「議第 24 号 令和 8 年度要保護及び準要保護児童生徒の認定」のうち、準要保護の継続申請で却下となった世帯番号 62 と 64 の 2 世帯 2 名について、その後の状況と対応を報告する。

算定値が援助基準額を超過したため却下となったが、本委員会の意見に基づき学校へ状況を確認した。その結果、両名とも学習費の滞納はなく、生活態度や修学上の問題はないとの回答を得た。

保護者へは、状況変化時の再相談に関する案内を同封して却下通知を

送付した。また、特別支援学級に在籍する世帯番号62の1名については「特別支援教育就学奨励費」を案内し、7月23日に申請を受理した。本件は当初の申請経緯を考慮し、4月に遡って適用することとし、来月の教育委員会で支給決定について承認を求める予定である。

-
- 川治教育長 : 議第25号「令和9年度使用小・中学校用教科用図書岐阜地区採択について」を議題とし、事務局に説明を求めた。
- 薄田課長 : 令和9年度使用小・中学校用教科用図書については、令和8年度岐阜県教科用図書岐阜地区採択協議会の選定結果と同一の教科用図書を採択することについて、教育委員会の議決を求める旨を告げ資料に基づき説明した。
- 黒田委員 : デジタル教科書について、今どこまで進んでいるのか。
- 薄田課長 : 来年、再来年の教科書については、デジタル教科書を子どもたちの教科書とはせず、多くの自治体も本市も、紙とデジタルの教科書を併用する「ハイブリッド」での使用を想定している。
「ハイブリッド」と「デジタル教科書のみ」では概念が異なり、デジタル教科書のみを用いる場合は、子どもたちの端末にすべてのデータを入れ、それを見て学習する。
一方、ハイブリッドは、紙の教科書を基本とし、紙面にあるQRコードをタブレットで撮影して、デジタルでのみ閲覧可能な動画や資料を見るところという使い方である。両方の教科書が配布されるわけではない。紙だけを選択した場合はQRコードは付属しない。
- 川治教育長 : 事前の雰囲気としては、ほぼすべての自治体がハイブリッドを選択しており、紙のみの選択をする自治体はほとんどない。デジタル教科書のみを選択する自治体もあるかもしれない。
- 黒田委員 : 家庭に持ち帰っているタブレットについて、重たいという保護者の不満の声を聞いた。その保護者は、デジタル教科書になるとさらに重くなるのではないかと懸念していた。
- 川治教育長 : これまではWindows端末、昨年度からiPadを導入している。Windowsはさらに重かったが、iPadに変更したことで軽くなった。
- 薄田課長 : 家庭での学習や、災害時等のオンライン接続、家での充電を依頼しているといった都合上、学校に保管庫はなく、基本的には自宅へ持ち帰る運用としている。
- 松浦委員 : デジタル教科書のみにする場合は、データをすべてiPadの中に入れるのか。
- 薄田課長 : そうなるか、あるいはオンラインでWebに接続して大元のデータにアクセスするかのどちらかになる。デジタル教科書のみになれば、紙の教科書がなくなるため、普段持ち帰るものはタブレットだけになり、軽くな

る。

藤木委員 : 使用上で不具合はないのか。

薄田課長 : iPadに変更してからはサクサクと動き、先生方からも特に不満の声は上がっていない。Windowsの時は端末が固まったり、立ち上がりに時間がかかったりして苦戦したが、iPad移行後は遅いという不満はない。ただし、校内LANの接続状況に若干改善の余地が残っており、現在徐々に整備を進めている。

川治教育長 : AIドリルなどの導入により、個々の習熟度に応じた学習や自動採点が可能となり、時短が図りやすくなる。一方で、1日中端末ばかりを使用して鉛筆を持たなくなるのではないかという心配もある。本巢市としては、デジタルと融合させつつ、基礎基本としての「書くこと」を重視した教育をすべての学校で実施していく。

藤木委員 : 今の子どもたちは、じっと端末を見ることでどうしても首が前に出る姿勢になっている。

黒田委員 : 新聞記事で、教育先進国として知られるフィンランドについての記事を読んだ。それによると、フィンランドはICTが非常に発達している反面、子どもの思考力や問題解決能力が低下し、OECDの学力調査も下落傾向にあるという内容であった。日本も同様の傾向になる懸念があるため、本巢市に限らず、現場で指導を任される者がそうした点を意識して指導を行っていく必要がある。

川治教育長 : ほかに質問等がないことを確認し、原案のとおり承認するかを諮った。

川治教育長 : 異議がなかったため原案のとおり可決した。

.....

川治教育長 : 日程5「その他」について説明を求めた。

高田課長補佐 : (1) 令和8年度岐阜県市町村教育委員会連合会研究総会について出席を依頼した。

高田課長補佐 : (2) 次回教育委員会開催期日について諮り、8月26日(水)午後1時30分に決定した。

.....

川治教育長 : 以上で提案された案件は終了した旨を告げ、委員会を閉会とした。

閉会 午後0時40分